

女の子の楽しいお泊まりの仕方

作チコリ

朝

目に入った天井は、私の部屋の天井ではなく、そして、部屋の空気も私の部屋とはまったく違い、でも、なんで心地よい…。

ああ、また眠りそう。

肌に触れる空気が少しひんやりして気持ちが良いです。

エアコンが入っているけど、今年の冬は寒くて、私の大好きな心地よい冷たさ。その横では、とてもとても暖かな感触。

ひんやりした空気も好きだけど、この暖かさからは、まだ離れたくなって…。いつもより少しだけ、お寝坊です。

目を開けて、横を見ると、可愛い寝顔のあなた。

ぴったりの私の身体に、身をよせてきて、私よりも体温が高いのか？

まだ眠っているからだからか、あなたからは暖かい体温が伝わってきます。

フワフワの掛け布団から投げ出された、あなたの手のひらに、私の手のひらをそっと重ねてみます。

「おはよう、美弥さん。」

気持ち良い。

「ん…むにゃ…。も、食べられない…」

ふふふ、可愛い寝言に思わず笑う声がこぼれてしまいました。

モゾモゾ…

あ？起きるかな？

スースー…

重ねた手のひらに少し力を込められてしまい、また寝息を立てはじめました。いつもは、キリッと美しいお姉さんっぽい美弥さんなのに、無防備な寝顔は少しだけ幼くて、愛らしいです。

先に目覚めた特権です！

美弥さんが起きるまで、寝顔を見てよう。

うふ、可愛い。

「わっ…！！さ…よ…ん…？んー、そうか、夕べお泊りにきたんだっけ。」

「はい。美弥さん、寝顔もとても可愛い。」

「ヤダ！もう、寝顔なんてジロジロ見ちゃだめだよ！恥ずかしいんだから！」

うふふと笑って、（あーもう、あなたの笑顔のがどれだけ可愛いのよ！）

と心で悪態をついて、

「沙代だつて、ジロジロ寝顔見られたら、恥ずかしいでしょ？！」

「うっん。美弥さんになら、へーき。一緒に…お風呂にも入っちゃったから…」

そう言いつつ、少しづつ顔が赤くなる沙代は、また可愛い。

ホントに可愛い。巴沙代ってやつは！

いつも、綺麗で美しくあるために努力していて、その甲斐あって、自分のこと自分でもなかなかイケてる方だと思ってるあたしが言っただからそうなのだ。って、あたしは、誰に力説してるんだ？

夕べ、初めて、あたしは独り暮らしのマンションに、親友を泊めた。

昨日今日とバイト全部オフだったのと、沙代のピアノの先生がお休みになったのが重なったから、

「だつたら、泊まりにこない？さみしーんだよー、おねーさんは。」

と冗談半分、本気半分で沙代に持ちかけたら、

「いいんですか？だつたら、美弥さんが寂しくないように子守唄歌いますね。」

なんて言いつつ、お泊まり会決行！となったのだ。

人を泊めるなんて初めてだけど、沙代も、友達のお家にお泊まりなんて初めてです、と、心なしか浮かれていたっぽい。そんなことも可愛いなあ。

あれ、素でやってるからなあ。

お互い、なんとなく、女の子同士の集团的な友達って作れなくて、性格も好みもまったく反対なのに、あたしたちは、とあるきっかけで、かけがえのない友達に

なれた。

素の自分…人にさらけ出すのって難しいじゃん？

だけど、「どんな私でも、美弥さんは美弥さんです。私の大好きなお友達。」
そう言ってくれた。

沙代はわからないかもしれないけど、あの言葉であたしがどんなに救われたか
どんなに幸せになれたか…

いつか、話せる日がくるかな？

美弥さんのお誘いが嬉しくて、お友達のおうちに泊まるなんてことも初めてで
もうドキドキが止まらないです。

いつもよりたくさんさんの時間、私が美弥さんを独占しちゃうんです。嬉しい。
美弥さんは、明るくて可愛くて美人で、でも気取ったところがなく、嘘がなく
男子にもとても人気があります。

クラスの女子とも仲良くされていて、美弥さんは
「あたし、女子には受けが悪いんだ」

なんて言っていたけど、そんなことないですよ。

ほら、同じクラスの女子も、美弥さんと同じ色のグロスをチェックしてます。
美弥さんは多趣味なので、どのクラスにも、男女問わず知り合いやお友達が
います。

私はたくさんの人って苦手だし、たくさんのお友達は、いらないうって思いますが、
美弥さんは特別、大事にしたい大切なお友達。

お泊まりが決まったので、その日は寄り道せずに、いつもは

「じゃあね！バイバイ！」「さようなら」と別れる道も、

「じゃあ、後でね！」「はい、後で。楽しみです。」

一旦別れ道で交わす言葉が違っただけで、ウキウキしています。

一人で、今日は、アナグラムで遊びながら自宅へ歩くのも忘れてしまうほど。
あ、美弥さん、夕食、どうするんだらう？メールを打ちます。

TO: 後刀美弥

SUB: 夕飯

どうしますか？何か作るなら、そちらに向かう時に材料を買ってきます。

リクエスト、ありますか？私のレパートリーの中でできるものなら作ります。

++ 巴沙代 ++

すぐに返信が来ます。いつもすごい！

TO: 巴沙代

SUB: RE: 夕食

考えてなかった(人)口。沙代の手料理(人)食べた！

好き嫌いはないよ！そうだ！夕飯の材料は一緒に買いに行こうよ！

うちの近所に、ショッピングセンターあるよん v() o() v

料理も得意だから(人) >、=、<、一緒に作るっ

* 。 * MIA * 。

TO: 後刀美弥

SUB: RE: RE: 夕食

了解しました。

++ 巴沙代 ++

送信ボタンを押して、少しため息です。

美弥さんみたいに、楽しいメールが上手に打てなくて。

相田さんにも、そっけないと指摘されてしまったことがありました。

でも、美弥さんは、それが沙代だからいいじゃん！って元気つけてくれて。

美弥さんの優しさに感謝です。

早く帰宅して、準備して、美弥さんとの待ち合わせの場所に行かなければ。

待ち合わせ場所の、待ち合わせわんこの前。

あたしはバス通学だから、一旦速攻で帰宅して、着替えて、お財布と、可愛いエコバッグを（フッフ、美弥ちゃんは、地球に優しく生きているのだ！）を持って、沙代と遊ぶ時に待ち合わせにしているわんこの前で待っていた。

そだ、着いたよってメールしとくかな。携帯を開いたら、その時

「美弥さん」

メールを送ろうとしていた人物が目の前に！小走りできたのか、少し息が早い。そして、沙代の私服姿は…まあ、もう見慣れたとはいえ今日も

ゴスゴスロリロリだ。

とっても似合っていて、可愛いんだけど、注目が~~~~汗

今日は薄手のふんわりしたワンピースみたいなコート。色はクリーム色。

コートにも、これでもか！ってほどのフリルにリボン。

そして、手には…？

「コレ、キャリーバッグ？…お泊まりは一泊だよ…ね…？」

「はい。必要なものしか持って来られませんでした…変ですか？」

キャリーバッグにもこんなロリータ系のフリフリにレース、リボンに

水玉模様…があるんだなと

荷物の多さと、さあ、あたしはどっちに突っ込めばいいのかな？

いや、どちらに突っ込んで、素で返ってくることはわかってるし、いいや。

「じゃあ、まず夕飯の買物にいきますかー！」「はい！」

私は、ケータイの電源を切って、バッグにしまいながら、沙代と並んで歩いた。

夕飯は何にしようか、食材を見ながら一緒に考えたり、夜食べるおやつを

物色したり、スーパーマーケットでの買出しなんて沙代とするのは初めてで

楽しかった。

彼女はいわゆるお嬢様なので、こんな庶民的100%なスーパーは珍しいみたいで、少しはしゃぎ気味。

「わあ、こういうものまで売られてるんですね。」

ベビーフードから赤ちゃん用のオムツ、更にはペットフードや文具のコーナーまで隅々と物色している。

おい、巴さん、いらなからね、それ。買わないからね、それも。

それでも、パッケージが可愛いとかなんとか言って、使うことも食べる事もない品々をいちいち手に取る。

ああ、小さい子供があちこち走り回るのを、注意するお母さんの気持ちを味わうとは…。

レジで会計をし、あたしが全額支払い終えたら、きっかり半分の金額を渡してくるので、

「今日は、お招きするんだから、あたしに出させて」

説得するのにも、また時間が…。最後に、やっと、

「では、私の家にお泊まりにきた時には、私におもてなしさせてくださいね。」で、終わった。

ラベンダー色に黒猫と音符の絵柄が入ったエコバッグに、一緒に買物した品を入れていく。

実は、これは沙代にもらったエコバッグなのだ。お揃いなのです。

今度尋に自慢しよう。

「使ってくれてるんですね。」笑顔の沙代。

「うん！これさ、可愛いし、すっごく便利だよ。たくさん入るし、丈夫だしね。」

「良かった。」嬉しそうに一緒に食材を詰めてくれる。

これは、以前何気ない会話で、使っていたエコバッグがほつれてきて、使えなくなってきたことをなんとなく話したら、なんと翌日に作ってきてくれたのだ！

バッグの内側は白地に同じラベンダー色の水玉模様。リバーシブルで使える、

丈夫で可愛い優れもの。

ゴスロリが好きな子は、大抵、小物なんかも自分の好みにカスタムする子が多いから、手先が器用で、裁縫も上手な子が多い。

バイト先でもそんな感じの子がいるから知っているけど、フルートしか持たない

わってイメージな沙代の意外な特技にびっくりする。

一緒に、待ち合わせわんこさんの前のバス停まで歩いて、それから、間もなく来たバスに乗りました。

美弥さんは、いつもこのバスで、登下校しているのですね…。

歩きながらでは、おしゃべりがお互い止まらなかつたけど、バスの中ではおしゃべりはやめて、静かに窓の景色をみました。面白いです。

見たことない看板や立て札、いろんな高さの建物、少し広めの公園…バスの窓から覗く景色はくるくる変わり…。

……………。

「さーよ。」

「は…はい?！」

「また、アナグラム、してたんですよ。」

私はちよつと赤くなつて、「…はい。」正直に言いました。

つつい、やつてしまいました。だつて、楽しいんです。

新しい景色が嬉しいんです。

「うふふ、美弥ちゃん、沙代のことなんでもわかつちやうんだぞ。」

つられて、私もつい笑つてしまいました。

あ、バスの中だからお互い小声で。

と。バスが急停車。

私たちは、混んでいるバスの中、立っていたので、美弥さんがよるけてきたのをえいっと支えました。

「ごめん!」

「大丈夫ですよ」

美弥さん、こんな風になつちやうことも多いのに、バスで登下校、すごいです。私には無理です。

そうこつしているうちに、美弥さんの降りるバス停になり、そして少し歩いて

まだ新築の、大きなマンションに到着しました。

本当はご家族で引っ越してくる予定で、部屋数のあるマンションにしたのだそうです。

でもご家族の、お仕事の都合で、美弥さんだけが一人で住んでいます。

美弥さんは、今年の夏に転校してきたんだそうです。

読者モデルのお仕事に正式に決まり、ゆくゆくは、所属している事務所や出版社なんかと契約して、雑誌モデルになるんだそうです。

雑誌に載っている美弥さん、とっても素敵なんです。

だけど、多趣味で好奇心旺盛な美弥さんは、他にも、色々アルバイトをしていて、とても忙しいんです。

せつかくゆつくりと一日間お休みできる時間、そんな貴重な時間を私とすごしたいと言ってくれた時の嬉しさといつたら…

言葉では、うまく伝えられない…。

今日の私は、心なしか、顔がほころんでしまつて…

そんな自分が少し恥ずかしいのと、とても嬉しい、不思議な気持ちが混ざっています。

ドキドキしながら、美弥さんがどうぞと、玄関の扉を開けてくれたので、

「失礼します」と靴を脱ぎ、ふふつ、可愛い

猫ちゃんのスリッパを美弥さんが足元に並べてくれました。

私は、黒猫ちゃん。美弥さんは白猫ちゃんのスリッパ。どちらも可愛い。

リビングに通され、キャリーバッグも邪魔にならない隅に置いてもらい、夕食作る前に少し、一休みして、お茶しようと言ってくれたので、従いました。ちよつと重ね着してきてしまったので、美弥さんが運んできてくれた、冷たいオレンジジュースがとても美味しいです

座っているソファもクッションも落ち着いた色合い。

その中に、ひとつだけ豹柄のホワホワしたクッションがあり、美弥さんのお気に入りだとすぐわかりました。

ほら、やっぱり。ソファに座った美弥さんは、あのクッションを抱っこして、ジュースを飲んでいる。

テーブルに、美弥さんが載っている新しい雑誌があったので、

「見ていいですか？」と聞くと、

「うん！見て見て！これ、明日発売なんだけど、検本で先に来たやつなんだ。今回はね、ブーツの特集で…」

目をキラキラさせながら、美弥さんの担当コーナーのページを開き、説明してくれます。

季節は冬なので、冬のファッション、小物の使い方なんか美弥さんの特集のページです。

スラッとした綺麗なプロポーション。

美弥さんみたいな素敵なお人、女の子は皆憧れちゃいます。

冬なのに、ショートパンツにロングブーツ。上着はニットだけど、袖なしで指が出る手袋がかっこいいです。

両面開きのもう片方の美弥さんは、ボアのついたショートブーツで、こちらは少し甘めのワンピース。

髪型も凝っています。

同じ人なのに、お洋服や小物、お化粧や髪型で断然印象が変わります。

特に、美弥さんは、もともとが整った顔立ちでスタイルもいいので、きつとどんな格好でも似合う…あ！

忘れていました！

あつと、声を出してしまったので、美弥さんに「どした？」と聞かれ、慌てて「あ後でのお楽しみですよ」。

そう、後でのお楽しみ。うふふ。

そつえば……

待ち合わせわんこさんで会ってから、美弥さん、携帯電話をさわってないです……。？？？

迷った割には、簡単にすぐ出来るって理由で、夕飯はカレーにしちゃった。カレーって面白いんだよ。

家庭によって、作り方の順番も、具も、辛さも、微妙に違って来るから。

そんな訳で、出来上がったのは、巴家&後刀家のコロボカレーと、ダイコンと大葉とブチトマトのサラダ。

サラダの具は、後刀家でよく作るサラダで、ドレッシングは、沙代の特製和風味ドレッシング。

かき混ぜていたドレッシングを横から、ちょいと舐めて見る。

「あ！美弥さんったら！」

んんん！美味しい！次から後刀家もこのドレッシングにしようかな？

梅肉が漬いてある和風のドレッシングはさっぱりしていて、コクのあるカレーの口直しにすごく合う。

「お箸休めにこれもどうぞ」と、

キャリーバッグから小さいバッグを出してきた中からは、お漬物。（お約束）実は、何度か沙代にはお漬物を何故かもらったことがある。

うーん、別にね、いいんだけど、美少女とお漬物ってなによ？！もうどさん？なんでも京都にいる親戚が老舗のお漬物屋さんらしく、たくさん送ってくるそう。

どつりでご飯に合っつてより、お茶請けに合っつうな、ちょっと上品なお味だったっけ。

まあ、いいや。そんなことより、あたしたちの格好だ。お揃いでエプロンしてるんだけど、これもキャリーバッグから取り出してきて、「はい、美弥さんの。」

と渡されたそれは、某有名なロリータ服の店の、ハートのエプロンだった……。うん。可愛いんだけどね。うんうん、沙代には本当に似合ってる。更には、

「お揃い…嬉しい」とかつぶやかれたら、ギューッてしたくなるじゃない、もっ！

カレーを美味しく頂いて、サラダは、ドレッシングのレシピを聞きながら

「？」

いきたにせや、各をまくつて、上平、皇下着たになつたら、沙代はひくくした。

顔している。

「何々？顔が赤いよ？さーよ。」

「だって、急に着替えだすから、驚いて…」

「あはは、着せ替えごっこしようって言ったの沙代でしょ。」

さて、このゴージャスなドレスみたいなのを着たらいいのね。

うわー！ふわっふわ！かわいいなあ。

でも色が落ち着いた紫つてのが気に入った！

さすが、沙代だね。チョイスもなかなか。

こそこそやっていたら、沙代は私の髪もツインテールにすべくりボンやくしを持ち出してきて、背中のリボンを丁寧に結ってくれた。

鏡を見ながら、沙代が楽しそうに私の髪を梳く。

ゴスロリ、結構良いかも！お姫様気分になっちゃうな、これ！

そうだ、次の仕事の時に、小物に甘めのものを入れてみよう。うん、いいかも！

「ふふ、やっぱり似合います！その色、美弥さんにぴったり。」

「うん、意外といけるから私もびっくりしたよ！」

髪も結び終わり、沙代とお揃いのツインテールになっていて、ゴスロリにヘッドドレスまで。

大きな目の、全身が映る鏡の前でポーズを色々とってみる。

お姫様っぽく、お嬢様っぽくとやりながら、どう？どう？と沙代の反応を聞くと、「素敵です」と嬉しそう。

そして、こそこそケータイを出すと、バシバシと私の姿を撮りはじめる。

「次は、沙代の番だよ。おねーさんが脱がせてあげようかしら？」

「いー！いいです！自分でできるから…」

慌てて美弥さんの魔の手(美弥談…ひどい…)から逃れ、隅っこで、こそこそと、着ているワンピースを脱ぎ、渡されたシャツを羽織ります。

…ってこれ、胸のほんの少し下辺りまでしか、布がありません…。

お腹も、おへそもまるみえです…。恥ずかしい！

そして、スカート…す。少ししか布がありません…涙…

私の着替えを後ろから覗き込んでいる美弥さんに、下着を見られて、

「うわー！沙代ってそんなセクシーな下着なんだ。下着もフリフリだらけかと思ったら！」

多分、私の顔はトマトみたいに真っ赤。

「さ・最近、ちょっと大人っぽい下着に憧れて、買っちゃいました…」

小さい声で、言い訳しつつ着替え終わると、結っていた髪のリボンを解かれて美弥さんが今度は私の髪を櫛で優しく解いてくれます。

「うん、沙代は髪をおろしても可愛い…てゆーか、大人っぽく見えるよ。ほら。」

「そうですか？」

自分では、髪を解いた姿を毎日見ているけど、大人っぽい感じはしません。だけど、美弥さんの服を着ているせいでしょうか？

少しだけ、背伸びして、大人になった気分です。

それにしても、この服では、絶対街を歩けません！

「この服、どうしたんですか？」

「これはね、去年モデルのバイトでイベントがあつてね、そのイベントガールの衣装。可愛いから、イベントが終わった後に買い取っちゃった。」

流通してないから、結構レアなんだよと、少し得意げに話す美弥さん。美弥さんにすごく似合いそう。

きつと、とても大人っぽく綺麗だろなって思います。

「ほらほら、鏡で見て見て！」

うわー恥ずかしい！し、下着がちよっと見えちゃいます。

「よく似合ってるよ。服や髪型で、女の子ってガラッと変わっちゃうから楽しいよね。」

「…そうですね。楽しいです。」

恥ずかしいけど、ちょっと大人っぽい自分が鏡の中にいて、横に私の肩に手を置いたロリータ服の美弥さんがいて。

とても楽しいです！

んー、薔薇の良い香り。今日は奮発して、ママがたまに使っている、某英国製の薔薇のシャワージェルで、バスタブをたつぷりの泡にして、と。
あたしは、タオルを一枚前に持ったままの裸。

ここはバスルームなので、服を着ている方がおかしいんです。

ドアの向こうでモジモジとしているお嬢さんに、呼びかけますか。

「沙代！お風呂準備できたから、入ってきてー」

なんだか、もごもご言い訳しながら、なかなかドアを開けようとしないうち、さつき、着せ替えごっこをしたし、大体女同士なんだし、今さらじゃん。

世話が焼けるお嬢さんだわ。まあ、その世話がすこく楽しいんだけどね。ドアをバンと開けると、「キャッ！」と沙代が身体を隠すように縮こまる。

一応、服は脱いで、タオルを巻いた状態だったので、あたしは容赦なく、沙代をバスルームの中に引き込む。

「ほら！良い香りでしょ？沙代、こっぴつの好きでしょ。バスタブに入れば全部見えないから、恥ずかしがらないの！」

「ほんと、薔薇の……とても良い香りです。」

薔薇の香りと、暖かい湯気と、お風呂場という、裸でない方が変だよなという空間と、泡がたつぷりのバスタブに、沙代も恥ずかしがるのをやめて、一緒に風呂へ。

はあ、ガードの超固い、鉄壁な沙代さんの、一糸纏わぬ美しいお肌を堪能できるなんて、なんか幸せ。て、あたしはオヤジか笑

でも、本当に綺麗な、すべすべで、ビスクドール？だった？陶器でできたフランス人形みたいで、この子、本当に人間？って驚いた。

さつきの着せ替えごっこの時も思ってたけど、間近で一緒にバスタブに浸かりながらみると、つくづくそう思う。

あたしも美しくあるために日々努力しているから、それなりに綺麗でしょって言える自信はあるけど、沙代を見てみると、少し羨ましくなってしまう。

「美弥さんのお肌、綺麗……」

同じことを考えていたのか、沙代が呟いた。

「沙代の方がすべすべで、キレイだよ。まあ、プロポーションは私の方が良いかな？」

なんて、冗談混じりにちよつとセクシーポーズをとると、クスつと笑った後、「うん。美弥さん、胸大きくて……形も綺麗です。腰は細くて、手足もすらつと長いし、さすがモデルさんです。」

声が響くバスルームの中で、あたし達は笑いながらいろいろおしゃべりしたり、髪をお互いに洗いあったり、背中も優しく流したり……

なんだろっ？

お互い裸で、癒される空間にしていると、なんだか昔からこっぴつて仲良くしていた大事な人に思えてきちゃう。

響く空間で、のんびりとバスタブに癒されていると、沙代が歌を歌う。
沙代の心地良い歌声が、ほわーんと良い気持ちにしてくれる。

歌い終わった沙代に、これ以上入っていたらほせそうだから出ようかという笑顔で、「また、一緒に……お風呂に入ってくださいね」

なんて、入る前はあんなにこねていたくせに、よほど気持ちよかつたんだって嬉しくなる。

お風呂。

とても気持ちよかつたです。

一緒にお風呂なんて……最初は恥ずかしかったけど、美弥さんがいるいる気遣いをしてくれるのも伝わってきて、嬉しかったし、

美弥さんの綺麗な素肌を拝見しちゃって、恥ずかしいというより、綺麗！って気持ちが大きくて。

美しいプロポーション、女性の曲線な美弥さんの身体は、羨ましいなって思いました。

たくさんの女の子が憧れる、そんなモデルさんになるんだと思います。

お互い、初めて一緒に風呂にも入ったお友達同士なのも嬉しかったです。
お風呂の後、美弥さんは部屋着のようなラフな服で、パジャマではありませんでした。

「この方が、ちょっとコンビニとか行きたい時に便利だからね。」

そして、私の着ているネグリジエを見て、

「あはは、やっぱり！沙代らしい、可愛いネグリジエだー！」

どうやら、私の寝る時の姿を予想していて、そしてそれが正解だったみたいで子供っぽく笑う美弥さん。

「もう、これが普通になっちゃってるんです。」

少し拗ねてそう言つと、

「ウンウン。沙代らしくて可愛いつてば。ハイ、これあげるから機嫌直す。」

受け取ったのは、冷たいジューズ。

お風呂上りには、とっても美味しいです。

このジューズ…以前、もらった、赤い果物が色々入ったもの。

とても美味しいと言った事、覚えていてくれたんだ…嬉しいです。

このジューズ、美味しいのに、メーカーも小さい会社みたいで、なかなか売ってないんです。

自宅の近所の自動販売機や、お店を探しましたが、散歩する範囲内には、残念ながら売っていませんでした。

だからわざわざ用意してくれた美弥さんの、さりげない優しさがいつも嬉しい。

美弥さんのお部屋で、ベッドの横に、ダブルサイズのお蒲団を一緒に敷き、私はそこで寝ることになります。

「あたしも、一緒に寝る！」

美弥さんが、自分の枕を持って私の寝る枕の横に置きます。

「ふふ、きつと二人で寝たら暖かいですね。」

「うん。あたし、寒がりだから。」

「私、美弥さんの湯たんぽですね」

「そ、湯たんぽ…。可愛い可愛いあたしの湯たんぽ。」

そう言つて、一緒に蒲団に入り、ギュッと私を抱きしめてくれます。
人と触れ合うのは苦手なのに、美弥さんだと心地良いです。

まだ湯上りの暖かい美弥さんの体温が伝わり、ホカホカとします。

夜更かしは、お肌に良くない！

そう言つて、早目に今夜はお蒲団に入っていますが、電気はオレンジの小さい灯りで。

そして一緒に、たあいしないおしゃべりをしました。

まず、相田尋さんの事。

どう思う？と言われて、素直に、大事な人…だと思えます、と答えると、あたしも、大事な友達かな？対等に友達として仲良くしてくれる、数少ない人だと。

美弥さんも、相田さんも優しい人たちです。

一緒にいたら、私も、優しくなれるでしょうか？

そつえば、今日は美弥さん、携帯電話をずっと触ってなかったです。

その事を聞いたら、今日はケータイ越しじゃなく、目の前に沙代がいるからつて言ってくれて…ちよつと、じわつと感激しちゃいました。

どうしよう、嬉しい。美弥さんの優しさがとても嬉しい。

それから、美弥さんのこと…昔もこの町に住んでいたことや、引っ越したこと、今年戻ってきたこと。

私が最近ハマっている、アナグラムのこと、美弥さんは音ゲーという、音楽に合わせて、ボタンを押していくゲームにはまっているそつなので、

明日はゲームセンターに行つてみようか？
それから…

それから…

…美弥さん、ずっと、側に…

「沙代？眠っちゃった？…みたいだね。」

スヤスヤと静かに寝息を立てて眠る、沙代の顔はいつもと違いとても無防備で。



あのね、沙代。
あたしね、この町に帰ってきてからね、今日が一番楽しい日だったよ。
ありがとう、沙代。
明日は、きっと明日が一番楽しい日になるんだろうな。
だって明日も沙代と一緒にだもんね。
沙代もそうだと嬉しいな。
きつと、そつだよね、あたしにはわかる。
「おやすみなさい。あたしの一番大事な女の子。」

終

